

關、藤原二君の英靈を弔ふ、

會長 直木倫太郎

交通部技佐關嘉市君、元國道局技士藤原勝治君、共に今回通州保安隊の叛亂に遭遇し遂に壯烈なる戦死を遂げらる、遂に痛恨の極みなり。

關君は東京府の人、昭和4年8月日本大學高等工學校を卒業し、以來三重縣道路技手に在任中のところ、滿洲國建國と共に大同2年9月渡滿、總務廳及び關東軍囑託として滿洲國治水利水事業の開発に並軍特命の水利調査に専任せられつゝありしが、北支工作の進展に伴ひ、康德3年7月轉じて、北支駐屯軍囑託となり、次で同年10月命を奉じて通州に入り、冀東政府水利委員會常務委員とし又同委員會設計處長代理として専ら北支産業開發の第一線に立ち、若き日本パイオニアエンジニアとして胸裡に冀東水利の5箇年計畫を描き之が實現に邁進すべく勇躍維れ日も足らざりき。

君は資性裕達明朗、事に處しては細心周密、克く上下の信望を集め、眞に業吏の模範なりし人。殊に滿洲國在任中は常に人煙稀なる僻陬の地に或は匪襲を避け或は惡疫と闘ひ挺身移動調査を敢行し、殊にこれが努力の結晶とも稱すべき、滿洲國河川誌は實に十數卷に達し滿洲國に於ける河川研究の唯一無二の好文献にして、本國治水利水事業に寄與する同誌の輝きと共に、君が功績こそ永久に稱へらるべきなり。

藤原君は秋田縣の人、昭和3年東京中央工學校卒業後、内務省東京土木出張所、復興局、三重縣土木課等に歴任し、康德元年年9月渡滿、當時の國道局に就職し關君と同様に専ら本國治水利水事業の調査に従事せられ南滿北滿を通じてその足跡を印せざるの地なし、本國河川事業今日の基礎を築くに到りたる實に君の努力に負ふところ甚だ多かりしを想ひて感慨更に新なるものあり。

君は資性極めて濃厚篤實、訴く上司の意を體しては率先事に當り、常に優秀なる成果を挙げられしが康德3年12月關君の通州入りにつれ、聘せられて冀東政府に轉じ、水利委員會技士に就職、専ら關君と共に北支産業開發の第一線に活躍中なりしを不幸今回の難に遭られ遇せしものなり。

關君は享年34歳、藤原君は享年38歳、兩君共に前途甚だ春秋に富むの身を以て、圖らざりぬ、冷夏の下白河々畔の夏草に臥してその光榮の生涯を閉ぢられむとは、誰か人生流轉の相の餘りに急激なるに驚歎せざらむ。今茲に兩君生前の英智颯爽たる壯容を想起するとき、余が心境ただ擾々として轉た夢幻の境地を土迷ふに似たり、悲痛哀愴の念押へむとして又押へ難し。

されど想ふに古人は言へり、死するは易きも死所を得るは難しと、國際情勢緊迫の今日、アジアの和平確立の大使命遂行に猛進する祖國日本の貴き前衛として、例へその身は職業戦線に斃るゝともその餘榮は軍人の譽れに劣らず、後世永く技術家の龜鑑として青史に銘せらるべく。男子としての本懐之に過ぐるものあらめや、在天の英魂以て冥すべきなり。

折しも康徳4年8月20日、新京は朝來初秋の氣爽涼たる中に君等を始め通州犠牲者八柱の合同慰靈祭いとも盛大に舉行せられたり。神威四邊を壓して、萬人肅然たる中に鑿容髣髴として感慨更に切々たるものあり。

終に臨み今回の遭難の中を僅かに身を以て逃れられしと聞く關、藤原兩御遺族の御心中如何ばかりなるかを想ひ、滿腔の御同情を申上ぐると共に、多難の行路を前にして切に御自重御自愛あらむことを祈念申上ぐ。